

読書のすゝめ

立志館ゼミナールから、この冬おすすめの本を紹介いたします。おもしろそうに思える作品があれば、ぜひ読んでみてください。

【何者】

朝井 リョウ(あさい りょう) 新潮文庫 山田先生

観察眼の鋭い主人公は、周囲の人間のささいな行動から、その人物の弱みや考えていることを分析して批判してばかりいます。何かに熱中すること、がむしゃらに取り組むことは格好の悪いことだと思い、他人の粗探しばかりしてしまいます。大学も卒業に近づくと、一向に就職が決まらない。友達はどうぞん就職先が決まってく焦り、置いて行かれる恐怖。あの時もっと頑張っていたら……という後悔。そんな中、友達から突きつけられる自分の本質。

就職活動という「何者」かにならなければいけない場で、「自分らしさとは何なのか」を急に突きつけられれば困惑すると思います。今はたとえ格好悪く、面倒くさいと思っても、一つのこと一生懸命打ち込み、自分のなかに様々な経験を蓄えていきますか。その経験値・引き出しの数が多ければ多いほど、「何者」でもなく「自分」を見つけていけると思います。

【影踏み鬼―新撰組篠原泰之進口録】

高島先生 葉室 麟(はむろ りん) 文春文庫

「影踏み鬼」というのは、影を踏まれた者が鬼になり、踏んだ者を追いかけるという子どもの遊びです。

幕末、京都の治安を守るために設けられた「新撰組」は、現代でもたたくさんの小説や映像作品などに登場します。近藤勇や土方歳三、沖田総司……魅力あふれる剣士たちの活躍は知っている人も多いでしょう。ただ、彼らには「暗さ」もつきまっています。外にも内にも厳しい彼らによって、たたくさんの命が失われていくのです。隊士篠原泰之進は、そんな新撰組のあり方に疑問を抱きます。

「流さないですむ血なら流すべきではない」

やがて彼は何人かの同志たちと新撰組をはなれ、新たな人生を歩もうとします。しかし、新撰組は彼らを裏切り者と見、「影踏み鬼」となって襲いかかってくるのです。

死となり合わせの日々の中で、人にとって本当に大切なもののために「生き延びること」を貫いた漢(おとこ)の物語、興味がある人はぜひ読んでみてください。

【世界記憶コンクール】

高木先生 三木 笙子(みき しょうこ) 創元推理文庫

ある日、新聞に載った『記憶に自信ある者求む』という求人広告。見たものを瞬時に覚えられる博一は、養父の勧めもあって募集に応じた。見事採用となり、高い給金を得て記憶力の訓練を受けていた。この訓練は脳の研究のためという。しかし、第一段階の一月が終了すると、主催者と連絡が取れなくなりました。一体、何のためにこんなことをしたのだろう。

舞台は明治時代。自らをワトソンと位置づける天才絵師と彼にホームズ役を割り当てられた雑誌記者を軸に五つのミス터리が収められています。登場人物たちの間にある愛情や絆などが温かな気持ちにさせてくれる一冊です。

【ちよっと今から仕事やめてみる】

濱口先生 北川 恵海(きたがわ えみ) メディアワークス文庫

ブラック企業で働いている青山隆の一週間。(月)死にたい(火)何も考えたくない(水)一番しんどい(木)少し楽(金)少し嬉しい(土)一番幸せ(日)明日から憂うつ。忙しい毎日で人生が嫌になった隆は、線路に飛び込んで自殺を図る。だが、隆の同級生だというヤマモトに助けられる。それをきっかけに、ヤマモトとの仲はどんどん深まり、隆の人生も好転していく。

日々生活していると、楽しいこともあれば、悲しいこともあります。しかし、あなたのことを支えてくれる人は必ずいるものです。辛い時には人に頼りましょう。辛い時にも終わりがあります。このお話の最後でも、隆は「カバンをブンブン振り回しながら」楽しそうに歩いていますよ。

【駅伝ランナー2】

八百先生 佐藤 いつ子(さとう いつこ) 角川文庫

中学一年の「走哉」は、陸上部で中長距離の種目を専門とする選手です。初めての公式戦で、走哉はあるランナーの走りに目を奪われます。一か月後、そのランナーが走哉の中学に転校してきます。彼の名は「一心」。一心は、陸上部への誘いをかたくなに拒みます。「才能があるのになぜ走らないんだ」と、自分の記録の伸び悩みに苦しむ走哉は、ますます一心のことを意識します。一方、「走哉は君の良いライバルになるよ」と、陸上部のマナージャーから言われた一心は、「なんであんなやつが」と反発します。しかし、次第に走哉のひたむきさに心を動かされ、やがて走哉と切磋琢磨することになります。

自分の中に眠る素質は、良いライバルがいてこそ掘り起こされるもの。お互いが向上し合える友達は大切にしたいですね。

【はなとゆめ】

鳥居先生 沖方 丁(うぶかた とう) 角川文庫

清少納言は二十八歳にして、帝の妃である中宮定子に仕えることになりました。華やかな宮中の雰囲気馴染めずいた清少納言ですが、十七歳の定子に漢詩の才能を認められ、知識を披露する楽しさに目覚めていきます。その後、貴族たちの歌のやりとりが評判となり、清少納言の宮中での存在感は増していくのでした。そんな中、定子の父である関白・藤原道隆が死去し、叔父の道長が宮中で台頭していくこととなります。やがて一族の権力争いに清少納言も巻き込まれ……。

美しくも心ふるわす、清少納言の戦いの日々が描かれた作品です。皆さんも清少納言は知っていると思いますが、この作品を読むと、想像とは違った清少納言の姿が見えてくるのではないのでしょうか。

【僕は小説が書けない】

久常先生 中村 航(なかつら こう) / 中田 永一(ながた えいいち) 角川文庫

なぜか不幸を招き寄せてしまつ、高校一年生の光太郎。中二の頃に書き始めた小説は、家族とのぎくしゃくした関係が原因で中途半端な状態になっていました。クラスになじめないまま最初の一週間で過ぎようとしていたころ、ひとつ上の先輩・七瀬からの半ば強引な勧誘により、廃部寸前の文芸部に入ることになります。不幸体質のせいにし、人と関わっていきなかつた光太郎は、超個人的な文芸部員たちに囲まれ、少しずつ人と関わるようになっていきます。そんなとき、文芸部の存続をかけて、文化祭に部誌を発行することになった部員たち。条件は、「新入部員のオリジナル小説を、必ず入れること」。焦りながらも、周りのメンバーからさまざまなことを教わり、光太郎は少しずつ自分の書きたいことを見つけていくようになります。

自分以外の人に興味をもつこと。小説の中のキャラクターを作る上で大事なことで、七瀬が言っていました。もしかしたら、私たちも同じかもしれない。つい、自分ばかりが……と考えてしまいがちななら、この本を読んでみてください。超個人的な部員たちが、きつと何かに気づかせてくれるはずですよ。



もう一度、お父さんと呼んでくれ。

樋口 卓治(ひぐち たくじ)

田中先生 講談社文庫

細野一郎は、妻を病気で亡くし、娘と二人で暮らすシングルファーザー。今更ですと娘のことを大切に育ててきました。そんな一郎の元に突然届いた「お父さん検定」。差出人は亡き妻の母。合格しなければ、親権を奪われるというものでした。「お父さん検定」の様々な項目に四苦八苦しなから、一郎は自身自身を磨いていきます。

この話を読んで、親の子どもに対する愛情をひしひしと感じました。皆さんも、親が自分のことを思って行動してくれていたのだなと感じることがあるはずです。この作品を読んで、周りの人に対して日頃の感謝を言葉にしてみたいと思います。

シュークリーム・パニック

倉知 淳(くらち じゅん)

松本先生 講談社文庫

体質改善セミナーに参加したメタボリックな男性四人組。セミナーハウスに閉じ込められ、三日間絶食とインスタラクターに告げられる。耐え難い空腹感の中、テープで封印された冷蔵庫の「限定販売特製濃厚プレミアムシュークリーム」が盗まれるという事件が起こる。

日常のちょっとした「謎」を考えさせられる短編集です。

「強盗だっ。全員、両手をあげろっ」と叫ぶだけで、何もせず逃げた銀行強盗の真の目的は？ アニメの色紙を奪うと予告してきた、怪盗ジャスティスの手口とは？ 高校二年の思い出作りで始まった映画制作中に突如消えた女優の手口と目的は？ ぜひ謎解きを試してみてください。私は六戦一勝四敗でした。

百年法

山田 宗樹(やまだ むねき)

山本先生 角川文庫

みなさんは永遠の命があればいいなと思ったことはないでしょうか。この小説は科学が進歩し、簡単な手術を受けるだけで肉体の成長が止まり、寿命で死ぬことがなくなった世界が舞台です。さぞ素晴らしいことだらけかと思いますが、様々な問題点が噴出します。それを解決するために、全世界の国家で年齢が百歳になったら強制的に死を選ばなければならぬという「百年法」が採択されます。当然、賛成意見と反対意見に分かれるのですが、百年法が採択された背景にはとんでもない事実が隠されていて……。

生命が永遠に続くということとはどういうことなのか、限りの命をどのようにつかつかつとをきき取る良い機会になればと思います。

ガラスの教科書

松原 始(まつばら はじめ)

名倉先生 雷鳥社

ガラスと聞いてみなさんはどんなイメージを持ちますか？「こわい」「わるがしこい」「ゴミをあさる」など、おそらく悪いイメージを持つ人が圧倒的に多いのではないのでしょうか。

しかし、ガラスにだって実はかわいいところやおもしろいところがあるのです。例えば、子どもガラスが巣立ちをいやがると父親ガラスが激怒して追い払おうとしたり、母親ガラスはそれをすこし困惑した様子で見たり。食べ物も素材そのままのものはあまり好まず、フライドポテトやパン、炊いた後のごはんなどが大好物。まるで人間みたいですね。そう考えると少し親近感がわいてきませんか？

読み終わった後に今更とは違う見方や考え方ができるのが読書の良いところです。この本を

読み終えたら、公園でガラスを見かけたときに、「お、あれは何ガラスかな？」と

なにしているのかな？」と周りの人よりも興味が持て、少し楽しみが増えるかも知れませんが。



宝石商リチャード氏の謎鑑定

辻村 七子(つじむら ななこ)

井上先生 集英社オレンジ文庫

ある日、大学生の中田正義は酔っ払いにからまれてる外国人のリチャードを助ける。正義は、リチャードが宝石商を営んでいることを知ると、自分が持っているピンク・サファイアの鑑定を依頼する。そのピンク・サファイアには他の人には言えない秘密があるのだが、リチャードが見事に解き明かしてしまふ。それをきっかけに、二人は親しくなり、正義はリチャードが営む宝石店のアルバイトになる。

このお話は、「宝石商を営む美貌の外国人」と「正義感と真面目さが取り柄の大学生」の二人が主人公です。二人は時にぶつかり合いながら、宝石に隠された人の思いや宝石を持つ人の人生を解き明かしていきます。いろいろな宝石が出てきて、宝石に関する知識も自然と学ぶことができる一冊になっています。

かがみの孤城

辻村 深月(つじむら みづき)

宮村先生 ポプラ社

皆さんは「ああ、学校に行きたくないなあ」と思ったことがありませんか？ 苦手な科目の授業があるとき、部活で上手くいかなかったとき、友達とけんかをしてしまったときなんかは心が重くなってしまいませんか。

主人公のころは中学一年生です。学校での居場所をなくし、部屋に閉じこもっていたころの目の前で、ある日突然鏡が光り始めます。輝く鏡をくぐり抜けた先には不思議な城があり、似た境遇の人が集められていました。ころは他の六人の中学生と、どんな願い事でも叶う「願いの鍵」を探しますが……。

中学生の皆さんにとって学校での出来事はとても大きなものだと思います。少なくとも一度はつらい気持ちを抱えたことがあるであろう皆さんにぜひ読んでほしいと思います。「人は助け合える」のです。そして読み終わった後は、カバーを外してみてください。本体表紙も素敵ですよ。

せんせい。

重松 清(しげまつ きよし)

平田先生 新潮文庫

この小説は、学校の先生をテーマにした短編集です。

私のお気に入りの、一人の生徒をどうしても好きになれなかった先生をテーマに描かれた物語、「にんじん」です。好きになれない一人の生徒に対し、冷たく、厳しくあたってしまった先生は、そのことを強く後悔・懺悔しながら日々を過ごします。

言うまでもなく先生としてあってはならないことですが、先生の心情や、嫌われ、冷たくされた生徒の心情が巧みに表現されており、胸を打つ作品でした。「先生である前に一人の人間なんだなあ」と感じられるような、心の温まる作品です。

先生と馬が合わなくて内申が……と嘆いているキミ、この本を読んで、一人の人間としての先生に歩み寄りませんか？!

凍りのくぐら

辻村 深月(つじむら みづき)

中沖先生 講談社ノベルス

この物語には少し・ナントカな人たちがたくさん出てきます。「少し・不完全」な父の友人、「少し・憤慨」な同級生の生徒会長。主人公は自分の居場所がないと感じている八方美人の女の子で、自らのことを「少し・不在」と分類しています。

迷いながらも懸命に生きる主人公の姿に共感することも多いはず。この冬は「少し・不思議」な物語を楽しんでみませんか。